

窓口支援事例 【新潟県 知財総合支援窓口】

企業情報

株式会社 渡辺栄松商店

| | | | |
|------------|---------------------|-----|----------|
| 所在地 | 新潟県燕市物流センター２丁目１０番地 | | |
| ホームページ URL | http://eimatsu.com/ | | |
| 設立年 | 1976 年 | 業 種 | 卸・小売業 |
| 従業員数 | 5 人 | 資本金 | 1,000 万円 |

企業概要

当社は創業 85 年の間、「特産地としての特性を生かし、プロでもご家庭でも使いやすく、信頼できる良いモノを提供する。」ことをモットーに、ステンレス製品を中心に、各種家庭用品等の地場産業（燕三条）商品の金物卸業をしております。

また、お客様とのご縁から越後駄菓子「えいまつ」が生まれ、昔懐かしい越後の駄菓子の味を当社独自で企画し、販売させていただいております。



自社の強み

「えいまつ」のお菓子は、昔から大切に親しまれているお菓子を基本にしながら、今までに無いお味のお菓子や、こんなお菓子があったら楽しい！と想像いただけるお菓子をシリーズにしております。

お菓子には、メッセージがあり、禅があり、メルヘンがある。

お菓子によって、笑顔が生まれ、ホッとできる癒しの存在として皆様のおそばに置いていただきたいと考えております。

そして、その思いを託して作っていただいている方々の存在も大きな強みと考えております。



一押し商品

2015年に「可愛い天使」シリーズとして抹茶あん玉、レーズンあん玉、梅あん玉を商品化し、天使のキャラクターが可愛いと好評を得て、国内外で販売が期待出来そうです。

特に、抹茶ブームと美容効果等に注目され、今後も海外からの観光客に対しても越後の味として抹茶あん玉等の売上増加を期待しております。

地元のメーカーが丹精を込めて作ったお菓子の作る人の思いが伝わるよう、今後もお客様に届けていきたいと思ひます。



知財総合支援窓口活用のポイント

窓口活用のきっかけ

同社社長夫人で「お菓子好き」を自認する佳子さんが、あん玉、きなこねじり、豆天等の新潟の懐かしいお菓子の販売にあたって、ブランド名の選定、出願について燕商工会議所で開催された外部定期知財無料相談会を訪れたのがキッカケとなり、その後は窓口支援担当が同社を訪問して商標制度と、その重要性につき説明を行い、継続的に支援することになりました。

最初の相談概要

同社から「新潟の懐かしいお菓子」をブランド化する名前として色々迷った末に、代々使用している社名の「えいまつ」を「お菓子」で商標登録したいとの希望もあり、窓口で他社の商標権調査の仕方、商標登録願の作成方法をアドバイスしました。

その後の相談概要

佳子さんの「駄菓子」に対する熱意もあり、今では40種類以上の駄菓子を販売しております。

「駄菓子」の新商品を開発すると同時に商標出願を検討し、お客さんから好評を得てシリーズ化した「可愛い天使」も窓口の支援で文字並びにキャラクターを商標登録しました。

また、同社社長は調理小物等の多種多様な金物類の卸業を行っており、お菓子での商標登録をキッカケに窓口の支援で金物類を対象に商標「えいまつ」を取得しました。

窓口を活用して変わったところ

窓口が例年、臨時相談窓口を開設している「フードメッセ in にいがた」のコーナーでは支援事例の展示とお菓子の試食品提供などで協力していただいております。

お菓子を販売していることから商標に対する関心が深く、知人にも商標権取得を勧めるなど窓口を積極的に活用・PRしていただいております。

これから窓口を活用する企業へのメッセージ

当社は、ご指導いただけたことにより知的財産を理解し、卸業として前進することができました。窓口の皆様は心より感謝しております。

私共のような小さい会社にとっては”どうしたら良いのか”について、相談、ご指導いただける”あたたい窓口”です。

ぜひ活用されることをお勧めいたします。

窓口担当者から一言（氏名：比企 修）



社長と社長夫人の佳子さんとは全く異なる商品を扱っているが、新商品の開発に積極的に取り組み、燕三条駅観光物産センター、(公財)燕三条地場産業振興センター内の物産館並びに、Amazon ネットショップ等で販売しており、独自で開発した越後の昔懐かしい味が全国的に広がることを期待し、窓口でも継続して支援していきたいと思ひます。